

黒駒の関(山梨県笛吹市御坂町)

甲斐国八代郡黒駒（山梨県笛吹市御坂町）に置かれた中世の関所。甲府盆地と駿河国を御坂(みさか)峠を越えて結ぶ、鎌倉街道（御坂路・甲斐路ともいう）の峠北麓に位置する。同道は古代以来官道で、甲斐国内の古代の駅の一つ水市(みずいち)駅を黒駒に比定する説がある。黒駒関の設置の時期は、1565 年、富士山中宮の社壇造営料として武田信玄から黒駒関銭のうち 10 貫文が寄進されていることから、同年以前であることがわかる。戦国期に富士信仰の隆盛に伴い、各地からの富士登拝の道者で鎌倉街道が賑わうと、沿道各所に道者から関銭を徴収する道者関が設けられており、黒駒関もその一つであったとみられている。1577 年信玄は富士御室浅間(ふじおむろせんげん)社（現山梨県南都留郡富士河口湖町）に娘の安産を祈願して黒駒第一関の閉鎖を約して

百科事典マイペディアによる